

潮音寺だより

第 272 号
平成 18 年 6 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856
E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11



ミヤコワスレ：鶴田偉子 作

一怒一老一笑一若

そんなことで

怒ったらあかん

怒ったら

命ちぢむで

にににに

笑ろてなあかん

笑ろてたら

体にええで

笑ろてたら

幸せくるで

訪問者

先口、消え入りそうな声で、若い女性から、電話がかかかってきました。なんでも、自分も主人も職場でいじめにあっていて、相談に乗って欲しいというのです。

これまでも、インターネットにホームページを開設してから、私どもの寺を訪ねてこられるということが何度もあり、その日は、法務がかなり積んでいましたが、電話の声があまりに弱々しく心配されましたので、なんとか都合をつけ、取りあえず、寺に来るようにいいました。

約束の時間の五分ほど前、歩いて来るといつていたので、寺が工事中のこともあって分かりづらからうかと思ひ、外に出て待っています。ところが、時間を過ぎてても

それらしき姿はいっこうに見えませんが、それで、今回はもう来ないかもしれないと思ひ、ひとまず寺の中に入ることにしました。

それが、不思議なタイミングで、私が入り、一呼吸おいた頃合い、玄関でチャイムを鳴らす男女二人の姿がありました。

それで、本堂に上がってもらうと、電話とは違って、男性の方が一気に泣き始めました。話の概要は、こうであります。

自分は帽子を被っているが、ストレスからくる円形脱毛症のため無礼を許して欲しい。自分たちには両親がなく、自分は祖母に育てられ、妻は孤児院で育った。実は、自分たちはこれから死のつとをこなしている。これまでいろいろなお寺にも相談をしたが、「人間、死ぬ気

でやれば何でもできる」といわれるだけで、冷たいものだった。しかし、今日このように相談に乗ってもらえるお寺に巡り逢え、お寺に対して良い印象を持って死ぬることは幸せなことである。

住むところがないので、新聞の求人広告を見て、寮付きのところ就職したものの、そこは蛸部屋のようなところで、十二万円の給料から十一万田親方が天引きをして、一万円でやっていかなければならない。だから、食事はほとんどカップラーメンで、悪いこととは知りながら、ときどき、近くの畑から野菜を失敬して食べているような状態である。

だから、子供ができても育ててはいけなかったので、最初の子は墮落させるを得なかった。ところが

が、今回また妻に子が宿り、現在四ヶ月である。親方は、「墮せ」と妻を責め、殴る蹴るの暴行を受けている。

自分は以前、横着な道に入っていたことがあり、そのころ世話になった人が六番町にいたので、今回その人を頼ってきたのだが、「親方の元に返れ」といわれてしまった。自分としては、戻るつもりはない。死ぬ決心をした。

と、これまで、おそろく何度も繰り返して話してきたのでありましょう、ドラマ仕立てになっていきます。しかし、あまりに出来すぎた話ですし、暴力を受けているといっても、それらしい様子は見あたりません。しかも、男性は、塗装工だというのは、見る限り、働いている手ではありません。

私が先ず彼らに聞いたのは、どうして当山を訪ねてきたかということでした。それは、ホームページからではなく電話帳を調べてきたということでした。ということでは、彼らにしてみたら、どの寺でもよかったわけです。また、最初の現れ方からして、第一印象があまり良くありませんでしたので、「こちらも、彼らの話を冷静に聞くことができました。だからでしようか、クワイマックスである

「死ぬ決心をした」が、今ひとつ演じきれず、涙が出てこないのです。そこで、次のように話して帰っていたことにしました。

一人とも親がないというが、本当に親のいない者はない。しかも、今は、自分たちが親になろうとしている。命というものをよく考え

るように。あなた達にも、「生きろ」とも「死ぬ」ともいわない。ただ、墮してしまっただ子に對しては、「すまなかった」という懺悔の心を持つように。今から、水子の供養をしてあげるから、仏様に手を合わせるように。(読経)

孫悟空が持っている棒を如意棒というが、思うがままになることを「如意」という。しかし、世の中は、思い通りにならない「不如意」なものである。そこを生き延びていくのが人間である、と。

帰り際、茶菓子を差し出したら、「ご食ではない」との言。確かに、それでも、人の心の真意は量りがたいものです。次の日、若い男女の心中のニュースが少しは気になりました。はたして、これで良かったのかどうか……。

◎工事状況報告

五月十八日現在、ネットも足場もとれているはずでしたが、残念ながら叶いませんでした。正面からの写真では、先月とほとんど変わりのみなので、それで西側からの写真を載せさせていただきました。本堂の屋根のアーチが、何とか分かるかと思えます。

連休と梅雨を思わせる連日の長雨で、仕事が思うようにはかどらないうちには、位牌堂のドーム屋根の防水が完全ではなく、その原因調査に時間がかかっているということとで、完成予定が七月末日にずれ込み、おおよそ一月ほど延びてしまいました。



雑記

▼ミヤコワスレ



檀家の大森止子様より、妹さん

(鶴田偉子様) 作のパンフレターを、今回も頂戴しました。

ミヤコワスレの名は順徳上皇の故事にちなむとされる。承久の乱(一一二二)で鎌倉幕府討幕に失敗し、佐渡島に流された順徳上皇は二〇年余をその地で過ごした。ある秋の日、庭に咲いていた野菊を見て、いままで都のみやびやかな暮らしを恋しがっていたが、この花はそれを忘れさせると仰せられたので、都忘れの名でよばれるようになったという。この伝承が正確だとすれば、現在のミヤコワスレとは花期が一致しないため、むしろ秋咲きのユウガギク、シラヤマギクやヤマシロギクが該当するとの見方もある。(日本大百科全書)

▼故郷し都忘れは

凜と咲く 沐魚